

# La Informilo de Nagoja Esperanto-Centro

センター通信 第305号 2022年7月27日発行

発行：名古屋エスペラントセンター Nagoja Esperanto-Centro

461-0004 名古屋市東区葵一丁目26-10ユニブル新栄301号

公式サイト <http://nagoja-esperanto.a.la9.jp/>

Facebookページ <https://www.facebook.com/nagoja.esperanto>

郵便振替口座 00840-8-40765 「名古屋エスペラントセンター」

愛知サマーセミナー授業風景



## ◀◀ 目次 ▶▶

愛知サマーセミナーにエスペラント講座（山口真一） .....	2
愛知サマーセミナーの講師を終へて（小川博仁） .....	3
サマセミ受講生の感想 .....	4
LINEを使って毎日読み合う（山田義） .....	6
La strukturo de Esperanto kiel faktoro por certigi ĝian funkcion rilate al Lingvaj Rajtoj (Kadoja Hidenori) .....	9
Vidindaj Lokoĵ en kaj ĉirkaŭ Nagojo (12) (Nakayama Kinzi).....	11
Unu bombono kostas 1000 enojn! ( Nakayama Kinzi) .....	13
活動日誌・活動予定.....	14
エスペラントに関する投稿（中日新聞） .....	15
エスペラントの日ポスター・編集後記 .....	16

# 愛知サマーセミナーにエスペラント講座

山口 真一

「誰でも先生、誰でも生徒」をコンセプトにした愛知サマーセミナー（通称サマセミ）は今年で第33回を数えました。

コロナ禍で一昨年は中止、昨年は規模を縮小しての開催となりました。名古屋エスペラントセンターでは第29回から連続して「国際語エスペラント」の講座を出講しています。第29回の講師は永瀬義勝さん、第30回から32回までは私（山口）、そして今回は小川博仁さんが講師を担当しました。

今回のサマセミは東邦学園（大学・高校）を主会場として、7月16,17,18日の三日間にわたって開催されました。合計で700の講座があり、総参加者数は公式発表はまだですがおよそ3万人と推測します。これでも最盛期（2000講座、6万人）と比べるとかなり少ない方です。

「国際語エスペラント」の講座は7月17日の第4限でした。講師以外のスタッフとして、堀田裕彦、今井田健二、水谷良典、永瀬義勝、山口。受講生は高校生4人、中学生1人、高校教師1人、一般3人の合計9人でした。受講者数は多い年も少ない年もありますが、こればかりは偶然の要素が大きいのので、見込みが成立しません。

80分の授業時間で、最初にエスペラントを使つての講師自己紹介、スライドによるエスペラントの主として言語的特徴の説明、そして質疑応答という内容でした。質問は活発になされ、なかには「エスペラントは良い言葉なのになぜ広まらないのか」という厳しい質問も。高校生のうち一人はエスペラントの独習経験がある、とのことでした。

以下に、講師からの感想、および受講生からの感想（実行委員会に提出されたもの）を紹介します。



# 愛知サマーセミナーの講師を終へて

小川 博仁

正直なところサマセミ講師はおろか、エスペラントのgvidantoの経験もなかった。そんな「初心者マーク」のヒヨコ講師だが、私なりの工夫もした。

初めにエス文での挨拶・導入文を音読して、エスペラントの響きと綴りに触れてもらった。

次にパワーポイント作成のスライドを解説した。かなりの盛り沢山な内容であった(70枚以上のスライド!!!)が、最後の方の接頭辞と接尾辞の細かな事例の紹介を端折った以外は「本文」のすべてのスライドの説明をした。エスペラントの学びやすさと中立性を強調したつもりである。語彙に関して、英語由来や日本語から借用されたエス単語の語義を問ふクイズも取り入れてみた。

最後にJEIのパンフレット『通い合う地球のことは 国際語エスペラント』の簡単な紹介をしてから質疑応答に移った。

「エスペラントとエスペラント語とはどのやうに異なるのか?」「エスペラントの日本大会や世界大会ではどのやうな内容のプログラムがあるのか?」「denaska esperantistoにはエスペラントだけが母語の場合もあるのか?」「緑の星の意味は何か?」ktp.の興味深い質問が出されて、エスペラントについての「より深い理解」の一助になったのではないか。

受講生の中には「以前にエスペラントを勉強したことがある」人も、エスペラント文で感想を書いてくれたツハモノさへゐた。もちろん「エスペラントに触れるのは初めて」の全くの初心者も、エスペラントの歴史や中立性に関心を持ってくれた方もゐた。

今回の入門講座は講師の興味と関心に基づき、「エスペラントの言語としての全体像」の紹介に重点を置いたので、エスペラント運動およびエスペラントの活用の側面にはあまり触れられなかつた。

スライドの文字量が多過ぎて見にくかつた、と言ふアシスタントの声も聴いた一黙して反省すべし。

ともあれdocendo discimus「我らは教へることにより学ぶ」のラテン語の古諺の如く、大いに勉強になつた。講師冥利につきる。

## エスペラントの言語特徴 **中立な国際補助語**

- 実用的目的からいえば、エスペラントなど勉強するよりは、英語でもやったほうが絶対とくだという発想がでてくるのもむりはない。しかし、**英語をはなすひとが多数存在するから、国際コミュニケーションは英語でやるべし**というのは**暴論**である。
- それなら、英語を母語としてそだったひと、あるいは英語を日常語としている人たちが**絶対的に優位**にたつ。それが、**言語的帝国主義**であり、その立場を小国の人たちにおしつけるのが**言語的帝国主義**なのである。それは**ハンディキャップを強制する**ものである。ハンディキャップと差

スライドの一例

## サマセミ受講者の感想

○エスペラント語の歴史や文法、特徴を知ることができた。エスペラント語は文法がシンプルで規則的で学びやすく、それで語彙が豊富で学びやすい言語で中立的、教え方も分かりやすかった。

(南山中学2年、男)

○Mi estas Axxxxxx Kxxxxxx. Esperanto estas bona pontlingvo. Mi povas uzi Esperanton malmulte. [編者注：名前は伏字とした]

言語が好きで、特に人工言語が好きです。エスペラントをもっと学んで、たくさんの方が話せるようになりたいです。

Dankas por la leciono!

(南山高校1年、男)

○規則的で例外のない言語だということが分かった。

(同朋高校1年、男)

○エスペラントは以前、新聞で知りました。そのことを親に話してみても「何それ？」と言われて、教えてもらえなかったもので、ちょうどサマーセミナーがあると知ってやってきました。「だれが優位になることもない」言語だとわかりましたが、エスペラント話者が増えて、新たに学ぶ人が出たときは、少し上下関係が出てしまうかもしれないと思いました。

エスペラントの冊子ももらえてよかったです。

話は少しねむたくなってしまうました。

(市邨高校、15歳、女)

○正直、今日の講座を受けるまで私はエスペラントの存在を知りませんでした。講座を受ける前も、英語が共通語としてあるのになぜエスペラントがあるのだろうと思いましたが、エスペラントの利点を聞いて、確かにエスペラントの方が平等だな、と思いました。丁寧なご説明ありがとうございました。

(同朋高校3年、女)

○ふだん聞いたことのないエスペラントについて話が聞けてよかったです。

(一般、60歳、男)

○はじめてエスペラントにふれました。国際的な平和を考えることが増え、今回の講義に興味をひかれました。  
たしかに学びやすそうです。日本で（世界で）エスペラントはどれくらい普及しているのでしょうか？  
ネイティブがないということは、お手本がないということでしょうか？新しいエスペラントの言葉を作ろうとするとき、どうするのだろう、という疑問が出ました。  
ありがとうございました。

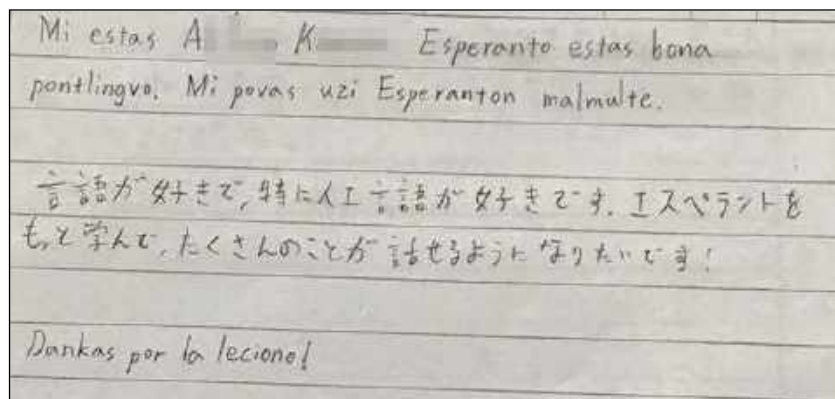
（一般、23歳、女）

○前に興味があって少し勉強しました。複数言語を勉強する上でもエスペラントは効果的だと思います。何か目的ができて機会があれば、本格的に学んでもいいかな、と思いました。

（至学館高校教諭、42歳、男）

○私が20代の頃、エスペラントを世界共通語にしたいという話をある人から聞き、気になっていました。その後、エスペラントがなかなか普及しない理由に、言語に対する大国主義的なものがあることと、固有の文化として自国語を守りたい意識が、それぞれの国民の意識にあるのかとも思います。  
本日の講座で、言語としてのエスペラントの素晴らしさ少し理解しました。  
難しいことも多いと思いますが、エスペラントの普及に努力されている皆様に私も少し役に立ちたいと考えました。  
本日はありがとうございました。

（一般、80歳、男）



↑終了後には全講座でこのような感想文が実行委員会に提出されます。

# LINE を使って毎日読み合う

山田 義

毎日2ページずつ、指定されたエスペラントの本を読んで、LINE グループで録音して公開するという勉強会に誘われた。このグループの主宰者である岐阜県在住の藤本日出子さんからだ。彼女の話によると、このグループは2017年からずっと続いているそうだ。彼女は、外国の人達とどうしたらエスペラントの学習を共に継続することができるか、試行錯誤の中考え出したのがこれであるとのこと。

韓国のエスペランティストと親交のある藤本さんは、韓国の指導者から「エスペラント歴1か月のこの人たちの学習」を託されたのだが、そのときはエスペラントも日本語もよく話せない人達同士とどのようにして勉強していったらいいのか気もつかず、見通しのないまま引き受けてしまったという。まず、毎日少しずつ短いエスペラント文を書く練習、声を出す練習、前置詞の使い方などは文章を書きながらみんなで学んでいったと言う。

もちろん彼らは、韓国で他の講習なども受けながら一生懸命努力しているのを彼女は知っている。そんな生活が4年も続く中で、今ではみんな韓国のエスペラント協会 Korea Espeanto-Asocio を支えるまでに成長しているようだ。

これとは別に、週1回1時間ずつ日本人、韓国人、オランダの人5~6人でスカイプを使っての会話も楽しんでいると言う。その会話グループは時には料理のフルコースの作り方とか、音楽会のこととか自分の発表やわからない質問など様々で、6~7年続いているそうである。

今や SNS の時代、藤本さんから、声を出して本を読み録音を公表する LINE のグループがあるので参加してみてもと誘われた。一日の都合のいい時に、指定されている本を開いて、スマホの録音ボタンを押して読む。正確には LINE を開いた上でマイクボタンをクリックする。

誰かに聴かせるというのではない。ただエスペラントを読んでいくのだが、つまり自分との戦いとなる。一日に3分とか5分くらいの時間を使うがその裏には単語をしらべたり文の成り立ちを学んだり、文の内容の把握などが必要となる。読み終わると日付けと読んだ箇所のページをメッセージ欄に忘れずに添えておく。もちろん聞き直すことはできる。しかし、私は自分の録音を聞いてみると必ずがっかりする。だから、そこの他人の録音を聴いてみたりして自分の読み方の参考にしている。他人の振り見て我が振り直せである。

現在このグループには20名ほどの参加者がいる。日本人と思われるのが4、5人あり、残りは韓国のエスペランティストのようだ。c をĉ で読む人、l と r の区別の難しい人、子音に時々ウを補って読む人、近くに寝ている家族がいるのかヒソヒソ

と読む人、明るい笑顔を思い出させる声、あるいはちょっと離れた場所にいる人に聞かせるようにする読み方の声が聞こえてくる。私などは、読み始めた途中で体が温まってくるとついくしゃみをしてしまう。雑音も入ったままで失礼している。

私は老人性難聴である。スマホとペアリングした補聴器でスマホの音声を聴くことができ、スマホの音声は対面より鮮明に聞き取れる。男声より女声の方が聞きやすい。老人性難聴には、その進行による自信喪失やうつ病をもたらすと言われるが、私の場合はなんとか補聴器やヘッドフォンを使ってこういう勉強会に参加できて幸いだ。工夫をして自分を励ましている。

一日に何回か着信音がスマホから補聴器に鳴る。画面をのぞくと LINE だ。そうだった、今日はまだ課題を済ませていなかった、と気がつく。椅子にかけて背中を丸めて録音すると、息苦しそうで暗い声色になりがちなので、なるべく立って読むことにしている。左手をスマホに指先を接触したまま、右手で新しい紙の本を開いて読みながらページをめくるのは大変難しい。そこで課題の本は PDF 版を注文し、iPad を机の高めの位置に置いて指先でページをスムーズに流している。今読んでいる“Dio ne havas eklezion”は発行元のFELにPDF版を注文した。しかし、ダウンロードには英語で説明するサイトにリンクされ、そこでうまく操作しないとダウンロードができない。行き詰まってしまったので発行元に、「エスペラントの本を買うためにはまず英語の辞書を買うべきか」と問いただすと電子メールにPDF版そのものを添付して送ってくれた。

早いもので、この LINE グループに参加してからすでに5冊目を読み上げた。一日に2ページの課題を読んで録音しておく（投稿しておく）と、主宰者がその日のうちに宿題を果たした人のニックネームを発表する。また、課題本が完読で終了すると、“gratulon!”とともに心のこもった終了証書がLINEに載る。そして次に読む本を指定して準備するようにと知らせが入る。自分の本棚になれば



調達して待機する。

LINEは録音だけではなくグループ内でメッセージの発信もできるのだが、お互いが読み方の評価や感想は一切しない。しかし、あるとき、私は算用数字で書かれた分数をエスペラントでどう読んだらいいのか分からなかったのでグループに質問すると仲間の一人がすぐに -obl- を投稿してくれた。読んでいてどうしても分からない箇所や入力ミスではないかと思われる単語綴りについては発見者の注意書きが入ってくる。

これを始めてからエスペラントを声を出して読むことが一層面白くなった。私にとっては、最近では課題の本だけではなく、以前から読んでみたくて積んだままにしてあった本を取り出して別途読む機会となっている。こちらはページ箇所も分量も録音も決めてないが、とにかく毎日その本を開くようになり、どんどんページが進んでいる。自分にとって関心のある内容であれば辞書を引いたり Wikipedio で確認したりし、本の欄外に書き込んで読書を楽しんでいる。

こうして、新型コロナによる巣籠もりエスペランティストにとっては新しい読書の世界が開かれている。こういうグループ形式の勉強会が新たに立ち上がったらエスペラントの本がもっと売れ、読書する者が増えるだろうと考えている。参加希望のかたは藤本日出子さんに問い合わせしてみるといいだろう。

[編者注] 藤本さんのメールアドレス：<dola@hideko.enat.jp>

## エスペラント大会

第107回世界エスペラント大会は、一昨年に予定されていて中止になったカナダ・モントリオールで開催されます。8月6日から13日まで。

また、第108回世界エスペラント大会は、イタリアのトリノで開催されます。2023年7月29日から8月5日まで。トリノは名古屋市の姉妹都市でもありますから、当地から多くの参加者を募り、できれば訪問団を作りたいものです。

第10回アジア・オセアニア大会は、11月3日から6日、韓国の釜山で開催されます。名古屋から釜山までは、LCCのエアプサンのほか、フルキャリアの大韓航空（JALがコードシェア）が就航しています。コロナ感染が落ち着いて、ふつうに渡航できることを期待したいものですね。



[編者注] ここに掲載する論文（概要）は、名古屋エスペラントセンター会員の角谷英則さんが、2011年に学会誌（ESPERANTOLOGIO / ESPERANTO STUDIES, Kajero 5 2011 Issue No. 5）に発表されたものを、ご本人の許可を得て転載したものです。全文はインターネットから読むことができます。

<https://www.academia.edu/3337324/>

## La strukturo de Esperanto kiel faktoro por certigi ĝian funkcion rilate al Lingvaj Rajtoj: ĉefe pri la koncepto de lingvolernado kaj pri konscio de lingva normo\*

Kadoja Hidenori

### Resumo

La aŭtoro unue montras ke la teoria universala bazo unusola ebla por Esperanto kaj la movado estas lingvorajtoj, kaj starigas novan koncepton, *laŭlingvorajta valoro*. Ekster la Esperanto-movado ĝenerale oni signifigas la ideon lingvorajto, ke ĉiu homo tenas rajton uzi la lingvojn kiujn tiu deziras uzi. Sed la movado evolue rekreis la ideon por ke tiu signifu ke homoj havas rajton komuniki demokratie, egale. Tiel la movado bazis sin sur la rekrea koncepto de lingvorajtoj, kaj ĝi akiris *laŭlingvorajtan valoron*. El ĉi tiu vidpunkto la aŭtoro indikas kelkajn problemojn teoriajn, kritike al la ĝisnuna kaj nuntempa Esperanta movado.

La unua problemo estas komprenomaniero de Esperanta lernado kaj instruado. En la movado tre verŝajne preskaŭ ĉiuj kredas ke ju pli multe da lernado kaj kapablo Esperanta, des pli bone. La penso tute ne pravas, kaj kontraŭas la movadan bazon, *laŭlingvorajtan valoron*. Ĉar multe da lernado kaj la granda kapablo postulas lernantojn tro multe da resurso por lerni, t.e. tempo, mono kaj lernokapablo. Tio grandigas malegalecon inter Esperantaj uzantoj. Alivorte la Esperanta movado devas celi ĝustan nivelon de lernado kaj instruado, kiu ne devas esti troa. Pri lerno resurso la aŭtoro temigas ankaŭ necescon de Esperanto-vorta kaj uzmaniera faciligado. Nuntempa Esperanto estas tro forte eŭropigita, ne nur pri latin- aŭ grek-originaĵoj vortoj malfacilaj, sed ankaŭ pri kutimesprimo kaj komunikadaj reguloj, ekzemple saluto per

manpremo. Tiaj elementoj ege malaltigas la laŭlingvorajtan valoron. Tial ni devas rekrei tiajn vortojn kaj esprimojn uzante nur bazajn facilajn vortojn, kaj neŭtrale deeŭropigi la komunikmanieron.

Sensocioseksigado de Esperanto estas ankaŭ necesa. Seksa duismo, ekzemple en pronomoj kaj priseksaj esprimoj, kaj seksisma ideologio en la sufikso *-in-* kontraŭas homrajton, kiu estas la teoria bazo de la movado. Esperanta movado sur la bazo de unu el la homrajtoj, nome lingvorajtoj, devas transformi Esperanton por ne nei aliajn homrajtojn, kiel foresto de seksa diskriminacio.

Ĉi-tiel por teni laŭlingvorajtan valoron, Esperanta movado devos pensi pri problemaj fenomenoj, kiuj kontraŭas laŭlingvorajtan valoron. Por planlingvo kiel Esperanto lingva regulismo estas vere nemalhavebla. Ĝenerale en la diskuto pri neplanlingvoj, lingva regulismo funkcias nedemokratie kaj aŭtoritatisme. Alie priskribismo kiu respektas lingovoŝanĝojn *naturajn* estas lingvodemokratia. Sed pri la planlingvo Esperanto, tute male. La Esperanta movado, kiu havas objektivan bazon, laŭlingvorajtan valoron, devas ĉiam esti lingvoregulisma por teni la bazon. Por altigi tiun valoron, ni devos fari senfine pli da esploro estontece. La aŭtoro provis komenci tion per tiu ĉi kontribuo montrante kelkajn konkretajn problemerojn.

\*Ĉi tiu teksto estas traduko de japanlingva teksto, kiu aperis en *Japana Esperantologio* n-ro 3 (2008:109–126); samtempe ĝi estas reviziita per aldono aŭ anstataŭigo de esprimoj, vortoj kaj piednotoj.

### 第109回日本エスペラント大会

- 日時：2022年9月23日（金・祝）、24日（土）、25日（日）
- 会場：八王子市学園都市センター（東京都八王子市）
- 主催：日本エスペラント協会、日本エスペラント大会八王子委員会
- 形式：会場参加とオンライン参加のハイブリッド
- 大会テーマ：コロナ禍後の新しいコミュニケーション時代とエスペラント  
Nova erao de komunikado kaj Esperanto post kronviroza pandemio
- ウェブサイト：<https://jek.jei.or.jp/>

# Vidindaj Lokoj en kaj ĉirkaŭ Nagojo (12)

## *Toyohasi* (豊橋)

### Parko Toyohasi

La tramo ankoraŭ viglas en Toyohasi. Per ĝi vi povas veturi, de la stacio Toyohasi ĝis antaŭ urbdoma haltejo. La vojo vin kondukas al la urbdomo. Sur la 13-a etaĝo de la domo, 56m super la grundo, vi povas vidi la panoramon, fore la Pacifikan oceanon, la Mikawa-Golfon, Yumihari Montarojn kaj la riveron Toyo. Kaj en tiu etaĝo estas angulo, kie oni povas sperti artfajraĵojn (*tezutuhanabi*). Oni diras ke en la urbo naskiĝis tiu artfajraĵo.

Sekve la vojo kondukas vin al Parko Toyohasi, en kiu estas Kastelo Yosida (iama nomo de Toyohasi) kiu estis rekonstruita en 1954. Oni povas vidi la modelojn de *Honmaru Goten* kaj tutan panoramon de la kastelo. En la parko fosaĵo (*hori*), terlaboraĵo (*dorui*) kaj ŝtonmuro (*isigaki*) restas.

Sekve oni vin kondukas al la urba muzeo de arto kaj historio. Vi povas rigardi ekspoziciaĵojn de arkeologio, folkloro, historio kaj arto, rilate al Toyohasi.

Najbare de la muzeo troviĝas Sannomaru halo, kie oni povas trinki teon *mattya* kun japana kuko. Oni povas vidi la riveron Toyo, kiu serpentumas.

En la parko arboj multe staras, printempe oni povas ĝui sakuron, aŭtune ruĝajn foliojn, kaj oni povas vidi birdojn, precipe en vintro.

Najbare de la parko staras Ortodoksa Eklezio de Toyohasi. Rusa ortodoksa preĝejo, kiu eskapis el la militatako kaj konservas la valoraĵojn. La plej malnova ekzistanta ortodoksa eklezio en gubernio Aiti.

La parko naskiĝis post la dua mondmilito. En 1884 la regimento establiĝis en la loko, kie nun estas la parko. Ĉe la enirejo de la parko restas tiama gardejo kaj en la parko monumentoj pri la regimento.

Revenvoje vi bonvolu promeni tra la centra parto de la urbo Toyohasi.



## La Muzeo de *Hutagawa Honzin*

Per la linio Tokaido vi veturas de Toyohasi al Hutagawa, 5 minutojn.

Edo-epokan vojaĝon vi povas sperti. Dum la Edo-epoko, la vojo Tokaido havis 53 staciojn, inter Edo kaj Kioto. Hutagawa estis la 33a stacio. *Honzin* estis gastejo por Daimio, kaj *Hatago* estis gastejo por ordinaraj popoloj. Apude de *Honzin* troviĝas la komercdomo Komaya. La tri konstruaĵoj restas preskaŭ tiaj, kiaj ili estis en tiu tempo. Vizitantoj povas imagi, kia estis la trafiko de Edo-epoko.

Se vi havas energion, mi rekomendas al vi viziti Iwaya-Kannon. De la stacio Hutagawa ĝis la loko piede 20 minutojn vi bezonas. Oni diras, ke lastatempe la lokon gejunuloj emas viziti. Mi vizitas tien printempe kaj aŭtune kaj ĝuas la panoramon. Vi povas rigardi nuntempan trafikon, Tokaido-Sinkansen, Tokaido-linio, Nacia vojo 1.

## Nonhoi-parko (Zoo kaj Botanika Parko Toyohasi)

De la stacio Hutagawa (suda elirejo) piede 6 minutojn vi volu paŝi. Tie vin atendas la parko Nonhoi, kiu konsistas el Zoo, Botanika ĝardeno, Muzeo de Natura Historio, kaj ankaŭ amuzludejo.

En la zoo la mamuloj (ekz. leono kaj elefanto) kaj la birdoj (ekz. flamengo kaj pingveno) entute pli ol 130 specoj, pli ol 800 loĝas. Oni diras ke nepre vidindaj estas Polusa urso, Foko, Leono, Ruĝa pando kaj Mandrilo.

En la Muzeo de Natura Histrio oni povas vidi la evoluon de vivaĵo kaj naturon de la regiono. Dek du dinosaŭraj tutkorpaj skeletoj, inkluzive de unu reala Edmontosaŭro prezentiĝas.

En la Botanika ĝardeno oni povas ĝui sezonajn florojn kaj arbojn. Vi povas vidi la nimfeojn, kiuj estis transprenitaj de Monet Ĝardeno en Francio. En la Granda Forcejo januare mi trovis papilion sur banano.



(Nakayama Kinzi)

# Unu bombono kostas 1000 enojn!

Nakayama Kinzi

Hodiaŭ mi vizitis la dentklinikon. Vetero estis nebona, mi cerbumis kiel iri kaj decidis piediri kun ombrelo. Kutime mi veturas per aŭtobiciklo, de mia domo ĝis la kliniko, mi bezonas 15 minutojn. Post 9:30 mi startis. Sur la vojo mi ja vidis ke sezonaj floroj montras sian belecon tie kaj ĉi tie. Mi supozis ke iuj certe ŝatas prizorgi florojn. Kiam mi venis al rivero, mi rememoris kiel fartas testudoj, kiujn mi vidis antaŭe. Mi atente vidis kaj trovis ilin. 7 kolektiĝis kaj 1 naĝis. Ankaŭ en la alia loko kelkaj naĝis. La rivero estas konata de mi, kiam mi estis elementa lerneĵano, foje vizitis la riveron por kapti fiŝojn. Siatempe tie mi ne vidis testudojn. Najbare de la rivero estis rizkampo, kiu havas akvflueton en kiu estis fiŝetoj (*medaka* kaj *funa*), kobitido kaj astako. En la rizkampa vojeto mi foje glitfalas kaj pantalono makulita. Nun en tiu iama rizkampo staras granda konstruaĵo. Tempo certe ŝanĝiĝas, de tiam pasis pli ol 60 jaroj.

Unu horon mi promenis. En la kliniko flegistino purigis miajn dentojn. La purigo daŭris duonhoron. Post la purigo kuracisto faras finan kontrolon kaj diris: Bonvolu teni nunan staton. Dank' al sanasekuro mia pago estis 540 enoj. Se la asekuro ne utilis, mi devus pagi 5400 enojn. Pli ol 75 jaruloj nun devas pagi 10% el la tuta kosto. Rilate al dentoj en nia lando oni havas jenan sloganon 8020 : en la 80 jaraĝo oni posedu pli ol 20 dentojn. Nun mi havas pli ol 20 dentojn, sed miaj dentoj jaron post jaro maljuniĝas kaj maldikiĝas. Pri dento mi havas amaran memoron. Kiam mia nepo estis malgranda, li manĝis karamelbombonon, mi petis lin doni al mi unu. Li transdonis unu, kiun mi manĝis. En la buŝo io neordinara restis. La metalo, kiu estis gluita sur mia dento, defalis. Mi rapidis al la kliniko, por ke la metalo estu ree gluita. Mi pagis pli ol 1000 enojn. Siatempe miaj familianoj ridegis : "Unu malgranda bombono kostis 1000 enojn." Tia bagatelo ankaŭ lastatempe okazis, ĉar mi ne atente prenis dolĉan bombonon.

Revenvoje mi veturis per trajno. Estas bone ke mi ne uzis la ombrelon.



---

## 活動日誌（5月から7月）

---

5/11（水）	19時から20時半	センター委員会
5/19（木）	17時半から19時半	中級学習会
5/24（火）	16時から18時	読書会（オンライン開催）
6/8（水）	19時から20時半	センター委員会
6/9（木）	17時半から19時半	中級学習会
6/23（木）	17時半から19時半	中級学習会
6/28（火）	16時から18時	読書会（オンライン開催）
7/7（木）	17時半から19時半	中級学習会
7/17（日）	17時半から18時	事務所片付け作業
7/17（日）	18時から19時半	センター委員会
7/21（木）	17時半から19時半	中級学習会

---

## これからの活動

---

### ワールドコラボフェスタ

今年で19回目を迎える、中部地域最大級の国際文化交流イベントです。新型コロナウイルスの影響により、2年間オアシス21で開催できていませんでしたが（去年はオンライン開催）、今年は3年ぶりに、現地の会場で開催することになりました。期日は10月22-23日。

名古屋エスペラントセンターは、このイベントにブース出展します。ただし、多くの団体がブース出展を希望しているため、10月22日（土）の1日だけを申し込み、7月23日に抽選の結果、出展が決まりました。名古屋またはその近郊にお住まいの方は、ぜひブースをのぞいてみてください。

### 入門講習会

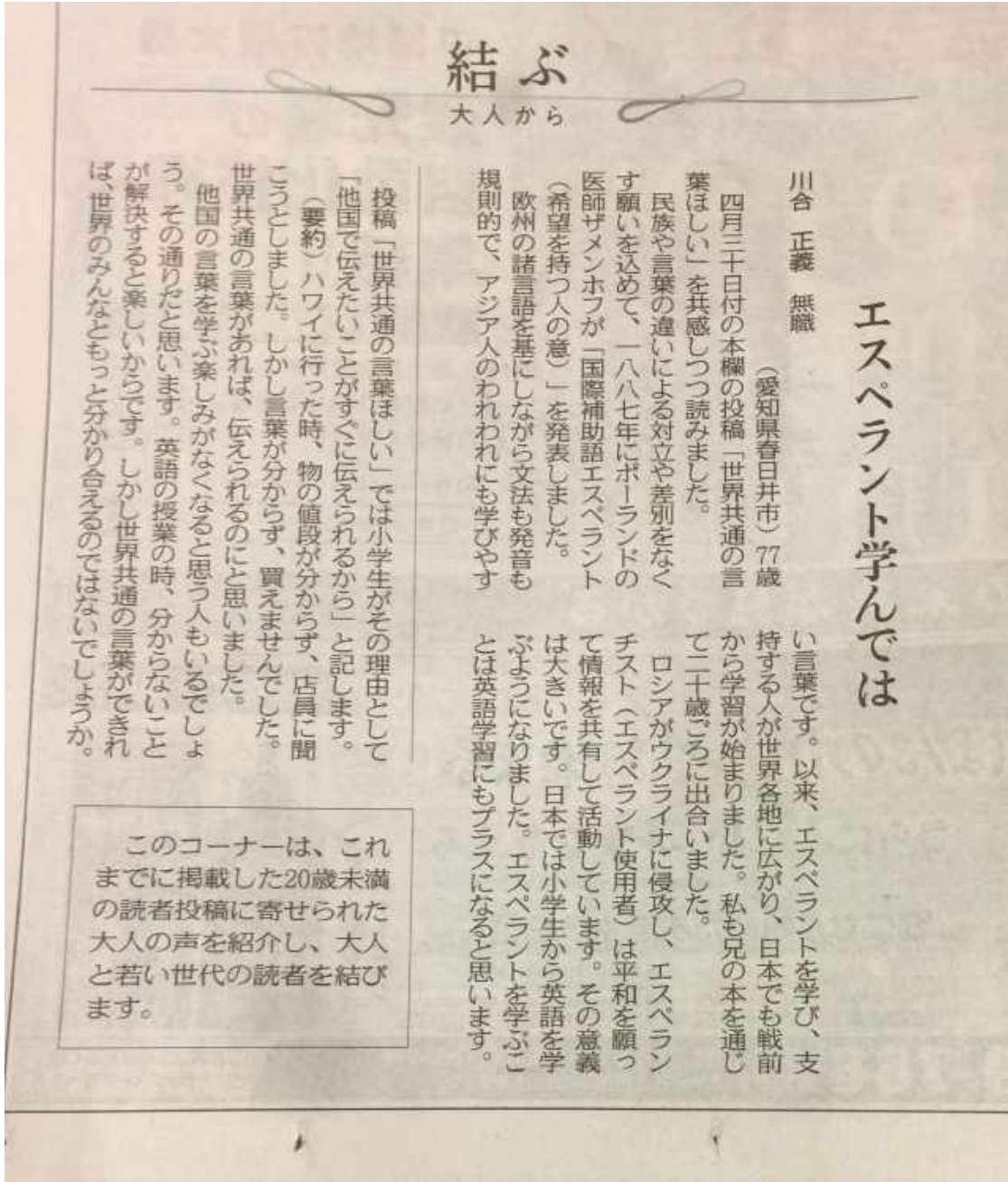
11月17日から1月5日まで、全5回の講習を中区生涯学習センターで開催します。講師は永瀬義勝さん。詳細は次号にて

### 出版

『エスペランティスト斎藤秀一の卒論と日記：駒澤大学に学んだ言語学者の軌跡』（別府良孝編著）を、名古屋エスペラントセンター名義で発行します。オンデマンド版。詳細は次号にて。

# エスperantoに関する投稿 中日新聞の社説・発言欄に

[编者注] 6月29日に掲載されました。切り抜き写真の提供は片山浩子さんより。



## エスペラントの日・ポスター



エスペラントの独習書 (La Unua Libro、ロシア語版) が1887年7月26日に出版されたことをもって、「エスペラントの日」、すなわちエスペラント誕生日、としています。このポスターは世界エスペラント協会によるエスペラント版をもとにして、さまざまな言語版が用意されています。<http://www.linguistic-rights.org/esperanto-tago/esperanto-tago-2022.html> からダウンロードして自由に配布することが推奨されています。

### ▶編集後記

○連載“Vidindaj Lokoj en kaj ĉirkaŭ Nagojo”は今後とも継続していきたいので、皆様からの投稿をお待ちしています。ご自分の街の見所を紹介してみませんか？○センター事務所ではおそまきながら、整理作業を開始しました。古い資料や故人からの蔵書にあふれかえっていて、一挙にかたづけることができかねますが、少しずつでも整理をすすめ、使いやすい事務所をめざします。(山口)

### センターの会員（維持員）募集中

A:月500円 / B:月1,000円 / C:月2,000円 / D:月3,000円



ランクによる会員資格に差はありません。ランク別及び振込月数を明記して郵便振込（口座番号は表紙タイトル下）へお願いします。メールアドレスがあれば、それもあわせてご記入ください。